

校長室だより



真岡東中 校長室だより

N o . 8 8

2019/03/07/Thu

卒業式前日

日本初の女帝、推古天皇 75歳で没 628年
後醍醐天皇、隠岐へ流される 1332年
上杉謙信、小田原城を包囲 1561年
警察制度改正、消防組織法制定1948年

チーム東…生徒・家庭・教職員へ向けての校長通信

高め合い、磨き合い、感動し合い、「愛」いっぱいの真岡東中に！

真岡東中学校HPでもご覧いただくことができます

ご卒業おめでとうございます！心より御祝い申し上げます！

明日は3年生最後の公开发表会＝「卒業式」 「式辞」に書き切れなかったメッセージを贈ります

進路の最終決定へ向けての期待と不安と…様々な思いが交錯して複雑な心境ではないでしょうか。しかし、時は止まることなく進み、いよいよ明日は「卒業式」です。私は、心を込めて「式辞」を書きました。何度も書き直し、そこに書き切れなかったこともあります。書き切れなかったことは、次の詩(言葉)に託してメッセージとして贈ります。

最低にして最高の道 高村光太郎

もうよそう。
ちいさな利欲とちいさな不平と、
ちいさなぐちとちいさな怒りと、
そういううるさいけちなものは、
ああ、きれいにもうよそう。

わたくし事のいざこざに
みにくいしわを縦によせて
この世を地獄に住むのはもうよそう。

こそこそと裏から裏へ
うす汚いたくらみをやるのはよそう。

この世の抜け駆けはもうよそう。

そういう事はともかく忘れて
みんなといっしょに大きく生きよう。

見えもかけ値もない裸のところで
らくらくと、のびのびと、
あの空を仰いでわれらは生きよう。

泣くも笑うもみんなといっしょに
最低にして最高の道をゆこう。

友 (達)

作者不詳

新しくできた友達は、「新友」
親しくなった友達は、「親友」
心の友になると、「心友」
真の友になると、「真友」

※新しい出会いがあれば誰とでも
「新友」になれる。

「新友」と長く付き合えれば、
「親友」になれる。
「親友」と互いに協力し合えれば、
「心友」になれる。

「心友」と互いに忠告し合えれば、
「真友」になれる。

できれば沢山の友達と、
ダメなら、たった一人でもいいから、

「新友」から「親友」へ、そして、
「親友」から「心友」へ、さらに、
「心友」から「真友」へと
「絆」を深めていきたい。

「絆」とは、

「糸」が「半」分と書きます。

それぞれの「糸」が「半」分ずつなので
すから、互いの「糸」は、しっかりと結
ばなくてはなりません。

それが「絆」。

高村光太郎という有名な詩人の詩と、友達についての言葉です。明日の卒業式では、互いに尊重し合えて、認め合える「仲間」であることを再確認できたらと思います。

ジグザグ道でもいいじゃないか 山田暁生

君は 人の道をうらやんでいないか あいつはストレートでいいな
あいつはエリートだと それに比べてこのおれは なんてバカなんだ
なんて能力の低いやつなんだ なんてみすぼらしい
ジグザグ道を歩いているんだと 苦労した人 ジグザグ道を歩んできた人
踏みつけたり けとばされたりしてきた人 そんな人達は 人の痛みもわかる
人の落胆や不幸にも 心を寄せることができる 心を寄せられる喜びもわかる
ジグザグ道は けっして君を見捨てない 人間、豊かな人間を 育ててくれる
誰だっけくねくねした 回り道をするよりは 頂上目指して まっすぐまっすぐ
最短距離で 進みたいと思っている でもまっすぐで 舗装されたきれいな道と
デコボコしていて 曲がりくねり 道端に四季折々に 様々な花を咲かせる
野山の道と どちらが味があるのだろう 同じ生きるなら 味のある人生がいい
わき目もふらず 人の心に寄り道もせず ただまっしぐらに 頂上に登る
それが人生という人は それでいいじゃないか しかしおれは そんな味の無い
つまらん道は歩かんぞ
「お先にどうぞ わたしゃちょっと 回り道をして 草花でも つんでいきます」
ジグザグ道で いいじゃないか 行ったり来たり いいじゃないか
そんな人生を歩みたい

卒業生の皆さん … 苦しいとき、つらいとき、そして将来、進路で悩んだり挫折しそうになったりしたとき、この詩を思い出して声に出して詠んでみてください。私(平野)自身も挫折の連続で「ジグザグ道」の人生です。きっとこれからも「自分探し」の旅を続けることと思います。

しかし、どんなに夢があっても、どんな人生であっても、それは「命」があつてこそ、先へ進めるのです。

進学したり就職したりして、いずれ社会へ出ると、くじけそうになるときもあります。そんなとき、君は決して一人じゃない。親も家族も、多くの友達や仲間もいます。恩師と呼ばれる先生もいます。みんな応援してくれます。頼れます。自分の生命ある限り可能性はゼロじゃない。親から授かった大切な生命があるからこそ、自分の花を咲かせることができます。その大切な生命を授けてくれたお父さん、お母さん、保護者に感謝してください。そして「ありがとう」と言ってほしいのです。日頃、感謝の気持ちはあっても、普段は照れくさくてなかなか言えないかもしれません。「卒業」というこの機会にぜひ「ありがとう」と言ってほしいと思います。

それでは卒業生の皆さん！私は、素晴らしい思い出と感動をプレゼントしてくれた君たちに心から感謝しています。私は幸せ者です。本当にありがとう！命を大切に、精一杯、自分の花を咲かせ、大きな夢を切り拓くことができるよう心から願っています。

真岡市立真岡東中学校長 平野 秀雄

